

会誌編集委員会 女子部

Number
40

子どもとデジタル教育から考えさせられた、環境づくり

明治大学 五十嵐 悠紀

2020年頃には小学校でプログラミング教育必修化、IT人材の不足……。子どもに習わせたい習いごとランキングのベスト10にも「プログラミング」が入ってくる時代になり、小学校に入るとプログラミング教育やデジタル教育の環境が急速に増えてきました。我が子の小学校でも、普通の公立小学校ですが、1クラスの人数が入るパソコンルームがあります。3年生になり、まだローマ字すら習っていないのですが、ローマ字変換表なる下敷きを1人1枚もらい、それとキーボードを見比べながら、1つ1つキーを打って自分の住んでいる地域について調べる学習が始まっています。

一方、未就学児の子どももデジタルデバイスに興味津々。しかし「スマホ育児禁止」など、ニュースや媒体ではよくない事例を見かけることが多く、親も家事をしている間にYouTubeを見せてはいるがそのことに対してなんとなく罪悪感を抱いている、という状態が多いのではないのでしょうか。

最近私は、未就学児の子どもたちに対して、家庭でどのようなデジタルデバイスの使わせ方が可能なのか、どんなアプリを使ってどういった力を伸ばせるのかといった可能性を考える、親向けの書籍を執筆しました。このことで、すでにデジタル教育を導入している幼稚園や保育園に取材に行き、お話を伺ったり、自分の家庭での3人の子どもたちの出来事を客観的に振り返ったりする機会を得ました。

その中で一番の気づきでもあり、意識し直したいと思ったのは子どもの環境づくりです。小学校に入ると、子どもたちは自分たちの世界が広がりますが、未就学児はまだまだ親の管理下で過ごしています。親の買い与えたおもちゃで遊び、親が約束したお友だちと遊び、親が作った食べ物を食べる。当たり前のことですが、デジタル環境だけでなく、生活環境を与えているのも私自身なのだということを改めて認識しました。食材を買いにスーパーに行き、自分の好きな食べ物や自分が食べさせたいと思うものを中心に買ってしまおうと、そもそも自分が苦手な食材は、自宅の食卓には出てこなくなります。

デジタル環境も同じではないでしょうか。米国では老若男女すべての人にプログラミングの機会を与えるという政策が始まっています。デジタルもアナログも、文系も理系も、男の子も女の子も、分け隔てなく、平等に学ぶ機会に恵まれるような、そんな環境が求められているのでしょうか。最近では、幼稚園児でもできるプログラミング言語も増えています。幼稚園児でもできる、ということはこれまでやったことのない父母世代、祖父母世代もできる、ということです。そう言う「いやいや、できないよ～」と言われてしまうのですが、なにせ「幼稚園児でもできる」んです。ぜひ一緒に始めてみてはいかがでしょうか。

詳しくは <http://www.ipsj.or.jp/> をご覧ください

ITに関する最新情報や研究発表の場の提供を通じて、あなたのお役に立ちます。

会員募集中!!



申込/照会先 一般社団法人 情報処理学会
〒101-0062 東京都千代田区神田駿河台1-5 化学会館4F
Tel(03)3518-8370(会員サービス部門) E-mail: mem@ipsj.or.jp

